

平成28年度

萌える天北オロロンルート 活動報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況
2. 活動団体の活動状況及び課題
3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者: 代表 西 大志	報告年月日: 2017/3/28
---------------------	--------------	------------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	H28					総括	
			活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況資料番号		
景観	愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出	風景との出会いの演出	フィルムコミッションから学ぶ新たな観光開発事業(フォトコンテスト作品展示)	苫前町商工会青年部	通年	12人(主催者側)		<p>景観形成についての総括 ・地域のすばらしい景観の発掘に注目し、フォトコンテストを通じた素材の集積を実施しており、活動を通じて、自分たちの住む地域のよさや美しさを改めて認識する場となっている。</p> <p>・今年で5年目となるフィルムコミッションから学ぶ新たな観光開発事業はこれまでに集積した画像素材を活用し、SNSによるPR活動を継続しているものの、今後、これらの素材を活かした観光開発が課題となっている。</p> <p>・今年度で3回目となった3ルート連携フォトコンテストでは、徐々に応募者数、応募作品数とも増加しており、定着化が進んだ。課題として、フォトコン作品の活用や資金調達などがあるが、数多くのすばらしい景観素材を収集することができるとともに、他のルートのよさを知る機会にもなっている。次年度も実施予定である。</p> <p>・北海道価値創造パートナーシップ会議に参加し、道内の多様な活動を実施している方たちと繋がる事ができた。ルート内でのつながりとともに、他地域との連携についても模索したい。</p> <p>・今年度も、シーニックカフェとして登録した。シーニックカフェは、オロロンスタンプラリーの立ち寄り拠点として展開しており、地域内に徐々に浸透しつつある。今後は、管内でのカフェの運用方法などをどうするのかの検討が必要となっている。</p>	
			送り火フォトコンテストの開催	-	-	-	-		
			シーニックバイウェイ3ルート連携フォトコンテスト	シーニックバイウェイ3ルート連携フォトコンテスト実行委員会	平成28年7月1日～9月15日(応募期間)	23人(主催者側)/応募者数41人・応募作品数213作品			
			景観診断プロジェクト	-	-	-	-		
			菜種・ヒマワリクリーンエネルギープロジェクト	-	-	-	-		
			ワークショップの開催	-	-	-	-		
			北海道価値創造パートナーシップ会議(ルート代表が活動紹介)	北海道価値創造パートナーシップ幹事会	平成29年1月21日	6人(ルート内)/25団体(活動紹介)			
			風景街道テーマ別意見交換会(風景街道の意見交換会に参加)	-	-	-	-		
		シーニックカフェの登録	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	平成29年3月	8人				
		花とみどりの景観づくり	エゾカンゾウ植栽プロジェクト	-	-	-	-		
			菜種・ヒマワリクリーンエネルギープロジェクト	-	-	-	-		
			萌天の森プロジェクト	萌える天北オロロンルート運営代表者会議	平成28年5月～10月	3人(主催者側)			
		愛着と誇りの醸成	景観診断プロジェクト	-	-	-	-		

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者: 代表 西 大志	報告年月日: 2017/3/28
---------------------	--------------	------------------

		H28						
食	自然の恩恵である地元食材のブランド化と魅力の発信	地場産品の魅力づけ	ひらめ底建網オーナープロジェクト (食材オーナー制度プロジェクト)	ひらめ底建網オーナーin 遠別実行委員会(遠別漁協、遠別町産業振興公社、エフエムもえる)	平成28年6月18日	50人(主催者側) 800人(一般)		食についての総括 ・今年で9回目を迎えるひらめ底建網オーナープロジェクトは、地元の活動団体が中心となって継続的、発展的な取り組みを実施している。出漁日に実施している主にオーナーを対象としたイベントでは、地域住民や一般参加者も増えつつあり、多数の方の参加を得ている。 ・今年度は、候補ルートの中から活動していた地域食材を用いた新メニューの企画として、ルート内の食材を具材としたたこ焼き「萌天焼」の開発に取り組み、ひらめオーナーのイベント時に実施した。資金面の確保に課題があり、ルール作りや普及啓発に向けた検討を行う予定である。
			萌天焼の開発プロジェクト	萌天サポーターズクラブ	平成28年6月18日	20人(主催者側) 100人(一般)	A - 1	
	新メニューの企画	ひらめ底建網オーナープロジェクト (食材オーナー制度プロジェクト)	ひらめ底建網オーナーin 遠別実行委員会(遠別漁協、遠別町産業振興公社、エフエムもえる)	平成28年6月18日	50人(主催者側) 800人(一般)			
		萌天焼の開発プロジェクト	萌天サポーターズクラブ	平成28年6月18日	20人(主催者側) 100人(一般)			
	地域ブランドの構築	ひらめ底建網オーナープロジェクト (食材オーナー制度プロジェクト)	ひらめ底建網オーナーin 遠別実行委員会(遠別漁協、遠別町産業振興公社、エフエムもえる)	平成28年6月18日	50人(主催者側) 800人(一般)			
		ワークショップの開催	-	-	-			
		チカホでのシーニックPRイベントにて地域特産物の販売実施	-	-	-			
		萌天焼の開発プロジェクト	萌天サポーターズクラブ	平成28年6月18日	20人(主催者側) 100人(一般)			
		情報受発信プロジェクト ⑤ ～萌か留た～	-	-	-			

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 萌える天北オロロンルート		報告者: 代表 西 大志					報告年月日: 2017/3/28	
		H28						
環境保全	地球に優しい「くらしぶり」のお手本づくりと促進	クリーンエネルギーのイメージづくり	菜種・ヒマワリ クリーンエネルギープロ ジェクト	-	-	-		環境保全についての総括 ・萌える天北オロロンルートでは、植樹樹木の生長が悪いことと、植樹木の間引きが必要であることから、生長木の移植と新たな苗の植栽活動を昨年度に実施しており、今年度は維持管理と成長の記録を行った。移植木については、移植後も生長が確認されており、継続した観測とともに、今後、新たな移植などを検討している。課題としては、継続した運営体制の人材、資金確保などがある。 ・環境保全の取組みについては、ゴミ対策など進められていない活動もあるため、今後の取組みの中で実施を検討したい。
			フォーラム開催プロジェクト	-	-	-		
			風景街道サミットinあさま (ルート代表がパネルディスカッションに参加)	-	-	-		
			萌える天北オロロンルート 運営代表者会議	平成28年5月～10月	3人(主催者側)			
		ゴミ対策の取り組み	-	-	-	-		
		身近な生態系の保全・復元	エゾカンゾウ植栽プロジェクト	-	-	-		
萌える天北オロロンルート 運営代表者会議	平成28年5月～10月		3人(主催者側)					
天塩イトウシンポジウム (共催)	-		-	-				
レクリエーション	暮らしに根ざしたもてなしによる暖かい交流の魅力づくり	ロングドライブのサポート	景観診断プロジェクト	-	-	-		レクリエーションについての総括 ・レクリエーションの活動については、ルート内のイベント「よりみちの駅」に参加し、シーニックのPR活動を通じて、地域内外の方に情報発信を行う機会を持つことが出来た。 ・苫前町まちづくり企画が主催で実施した流雪溝雪はねボランティアツアーにて、情報発信と活動のサポートを行った。点と点の関係を面的に広げることで、ツアー参加者へのルート内の魅力発信に繋がる機会を持てた。
			フォーラム開催プロジェクト	-	-	-		
			風景街道サミットinあさま (ルート代表がパネルディスカッションに参加)	-	-	-		
			萌える天北オロロンルート 運営代表者会議	平成28年5月～10月	3人(主催者側)			
			情報発信プロジェクト ⑤ ～萌か留た～	-	-	-		
		身近なアウトドアの紹介	-	-	-	-		
		フィルムコミッションから学ぶ新たな観光開発事業(フォトコンテスト作品展示)	苫前町商工会青年部	通年	12人(主催者側)			
流雪溝雪はねボランティア ツアーin苫前	苫前町まちづくり企画	平成29年2月4日・5日	35人	A - 2				

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 萌える天北オロンルート		報告者: 代表 西 大志					報告年月日: 2017/3/28	
			H28					
		各種カルチャー活動による交流	エゾカンゾウ植栽プロジェクト	-	-	-		
			菜種・ヒマワリ クリーンエネルギープロジェクト	-	-	-		
			よりみちの駅イベントでのシーニックPRイベント	北海道留萌振興局「よりみちの駅」、留萌地域住宅リフォーム推進協議会	平成28年10月22日	10人(ルート内参加) 800人(一般)		
歴史・文化	先代の暮らしぶりと新たな価値観を将来に伝え楽しむ	歴史資源の保全と活用	ワークショップの開催	-	-	-		歴史・文化についての総括 ・歴史・文化に関する活動としては、フォトコン作品の展示を実施した。留萌地域での暮らしぶりについて、写真を通して伝えることができた。 ・歴史・文化を主眼とした取組み自体は実施していないが、今後、他の活動の拡大などを通して実施できればと考えている。
			情報受発信プロジェクト ⑤ ～萌か留た～	-	-	-		
		次世代への歴史伝承	-	-	-			
		独自の生活文化の発見	フィルムコミッションから学ぶ新たな観光開発事業(フォトコンテスト作品展示)	苦前町商工会青年部	通年	12人(主催者側)		
			送り火フォトコンテストの開催	-	-	-		
			シーニックバイウェイ3ルート連携フォトコンテスト	シーニックバイウェイ3ルート連携フォトコンテスト実行委員会	平成28年7月1日～9月15日 (応募期間)	23人(主催者側)/応募者数41人・応募作品数213作品		

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者: 代表 西 大志	報告年月日: 2017/3/28
---------------------	--------------	------------------

		H28					
全体	上記内容全体の方針に関わる活動	情報受発信プロジェクト ① ～冊子: Eezo～	地域情報受発信システム実行委員会 留萌観光連盟	平成29年3月発行	25人(主催者側)		地域づくりについての総括 ・オロロンまっぷを中心に、様々なツールを活用した管内の情報発信の取り組みが、地域の内外に浸透しており、地域づくりの取り組みが深まっている手ごたえを感じている。課題として、継続的な情報発信のための資金の確保などが挙げられる。 ・様々な活動を規模は変化しつつも継続できていることは、ルート活動を通じた地域づくりに貢献できていると感じている。今後は、新しい取組みも大事だが、今の活動をより向上させることや、他のルートとの連携の強化など、すこずつ、出来る活動を実践していきたい。
		情報受発信プロジェクト ② ～オロロンマップの活用～ ～オロロンさんぼみち	地域情報受発信システム実行委員会 留萌観光連盟	平成28年12月発行	25人(主催者側)		
		情報受発信プロジェクト ③ ～道の駅・シーニックカフェスタンプラリー～	萌える天北オロロンルート	平成28年6月4日～11月3日	15人(主催者側) 643人(一般)	A - 3	
		情報受発信プロジェクト ④ ～オロロンドライブ情報～	地域情報受発信システム実行委員会 留萌開発建設部	9回発行 (Vol.47～Vol.55)	6人(主催者側)		
		情報受発信プロジェクト ⑤ ～萌か留た～	-	-	-		
		情報受発信プロジェクト ⑥ ～留萌管内観光アンケート～	-	-	-		
その他		熊道プロジェクト	-	-	-		
		フィルムコミッションから学ぶ新たな観光開発事業(SNSを活用したPR活動)	苫前町商工会青年部	通年	12人(主催者側)		

萌える天北オロロンルート

Moeru Tempoku Ororon Scenic Byway

活動名：ルート内の食材を活用した『萌天焼』の開発

【概要】 候補ルートの中から続いているルート内の「食のブランド化」に向けた取組みの一環として、管内の様々な食材を具材に使ったたこ焼き「萌天焼」の開発に向けた検討を行った。今年度は、活動2年目としてひらめオーナーin遠別（遠別町）で、たこ焼きを作り、100個完売した。

昨年度の経験を活かし、具材の数や種類などを改良した。「たこ焼きの具材がいろいろあるというのは面白い」「どれも美味しい」といった声をいただくことができた。今後は、たこ焼きの具材に適した食材の検討や、将来的に地域のイベント等で様々な主体に実施してもらえるよう、PRの仕方などを検討する予定である。

【日時】 平成28年6月18日（土）

【場所】 遠別漁港（遠別町）

【主催】 萌天サポーターズクラブ

【参加人数】 活動従事者：20名 一般参加者：100名

萌天焼

4つの具材で8個入：

<本日の具材>

♪たこ（遠別町）×2個

♪いか（初山別村）×2個

♪えび（羽幌町）×2個

♪はたて（苫前町）×2個



500円
(8個入)

シーフードパークと生海産
観光バス用オロロンルート

萌天焼（もえてんやき）の定義・ルール

萌える天北オロロンルートの「食」を活かし、地域の魅力を伝える「萌天焼（もえてんやき）」とは！



定義：

萌える天北オロロンルート内の1市7町1村（幌延町、天塩町、遠別町、初山別村、羽幌町、苫前町、小平町、留萌市、増毛町）産の食材を用いたたこ焼きを「萌天焼」と称する。

ルール：

1. 食の宝庫、萌える天北オロロンルート内の食材のPRを目的とする。
2. 具材には、萌える天北オロロンルート内で生産された食材もしくは加工食品を3種類以上用いること。
3. 具材には、2種類以上、海産物もしくは畜産物を組み合わせること。
4. 当日のお品書き（食材と生産地）を明記すること。

たこ焼きのようで、たこ焼きじゃない、その1個に何が入っているのかは、食べてみてのお楽しみ♪



萌天焼を作成している様子



販売風景

萌天焼の紹介

萌天焼の販売用POP

萌える天北オロロンルート

Moeru Tempoku Ororon Scenic Byway

活動名：流雪溝雪はねボランティア ツアーin苫前での情報発信

【概要】 苫前町古丹別地区で実施される「札幌発着型雪はねボランティアツアー」の実施時に、ルート内の魅力を紹介することで、点（苫前町）と点（参加者の居住地）のつながりを面的（ルート内）に展開できるよう活動協力を行った。当日は、苫前町に向かう移動途中の休憩施設でツアー参加者をお出迎えしたり、移動中のバス車内でルート内の各地を巡るWEBCMや鯉漁の歴史動画を流した。これにより、苫前町だけではなく、ルート内の魅力を伝えることが出来、また、参加者の連帯感を生むきっかけづくりとなった。今後は、休憩拠点でのさらなるPRなどが課題である。

【場所】 苫前町古丹別地区

【主催】 苫前町まちづくり企画

【協力】 萌える天北オロロンルート運営代表者会議

【日時】 平成29年2月4日（土）～5日（日）

【場所】 苫前町古丹別地区

【参加人数】 35名（地域側 18名、町外参加者 17名）



移動中のバスでルート内のWEBCM「るもいであいました」を配信



バス内の様子



休憩場所の船場公園（留萌市）でお出迎え



参加者の集合写真

萌える天北オロロンルート

Moeru Tempoku Ororon Scenic Byway

活動名：地域情報受発信プロジェクト：道の駅・シーニックカフェ+情報拠点スタンプラリー

【概要】 域内観光の活性化を促進するために、管内で最も観光客が訪れる6月4日から11月3日にかけて留萌管内「道の駅」と「萌える天北オロロンルート」が連携して、地域限定のスタンプラリーを開催。昨年から加えたシーニックカフェに情報拠点として5月に出来た「船場公園」他2つを追加した。

応募要項が変更した影響のせい、2年連続で応募者数は減少傾向にあったが、約3割は道外の方であり、道外客の周遊化に寄与していることがわかった。スタンプラリーに参加している店舗からは積極的な参加の声が聞かれた。来年度は、応募数を増やすための工夫について、検討中である。

【日時】 平成28年6月4日～11月3日

【場所】 留萌管内「道の駅」「シーニックカフェ」「情報拠点」

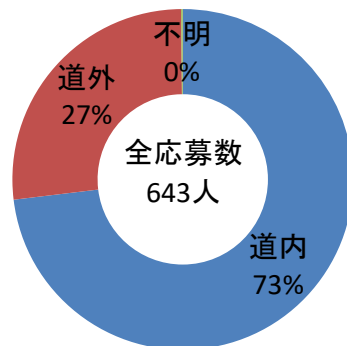
【主催】 萌える天北オロロンルート運営代表者会議（地域情報受発信システム実行委員会）

【協力】 北海道地区「道の駅」連絡会、留萌開発建設部

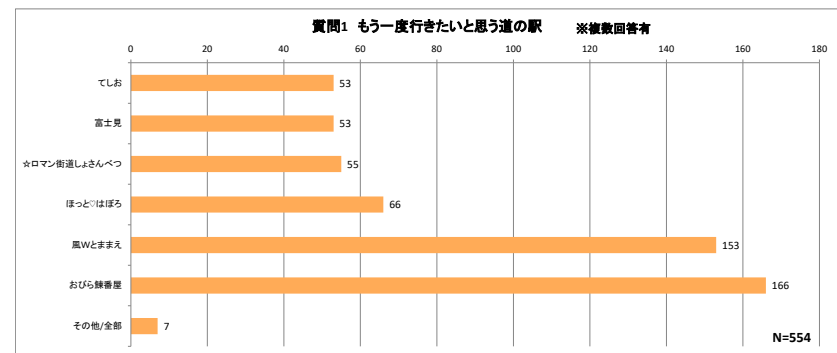
【参加人数】 643人（応募者）



スタンプラリーシート設置状況



応募者数の道内外割合



応募用紙内のアンケート結果（道の駅）

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者: 留萌開発建設部	報告年月: 2017/3/28
---------------------	--------------	-----------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	平成27年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
景観	愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出	「3ルート連携フォトコンテスト」の作品巡回パネル展による広報活動(★)	平成28年7月1日 ～7月31日 平成28年10月1日 ～10月31日	増毛町、留萌市、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、天塩町	「3ルート連携フォトコンテスト」応募作品の巡回パネル展を国稀酒造、船場公園、「道の駅」おびら鯉番屋、風Wとままえ、ほっと♡はぼろ、☆ロマン街道しょさんべつ、天塩町役場で開催し、広報活動に協力した。 今後も、継続してルートの活動を広く周知することが必要。	地域景観の紹介や地域景観づくりの継続した取り組みが定着している。 今後も、効果的なPRや、取り組みを地域全体に展開できる体制作りを進めたい。	
		萌天の森プロジェクトでの植樹及び移植 主催: 萌える天北オロロンルート	平成28年5月	留萌開発建設部	萌天の森プロジェクトでの植樹及び移植活動に留萌開発建設部の職員が参加した。		
食	自然の恩恵である地元食材のブランド化と魅力の発信	ひらめ底建網オーナープロジェクト(食材オーナー制度プロジェクト)における広報活動 主催: ひらめ底建網オーナーin遠別実行委員会	平成28年6月18日	留萌開発建設部	ひらめ底建網オーナーin遠別において、萌える天北オロロンルートの活動紹介とシーニックバイウェイ北海道の広報やパネル展示、地域イベント情報を提供するドライブ情報紙やオロロンまっぷ及び萌える天北オロロンルート「道の駅・シーニックカフェ」スタンプラリー2016の応募用紙を配布した。 今後も、ルートの活動やシーニックバイウェイ北海道の更なる認知度向上に向けた取り組みが必要。	地域イベントを活用したルートのPR活動が定着している。 継続して認知度向上に向けたPR活動を進めたい。	
レクリエーション	暮らしに根ざしたもてなしによる暖かい交流の魅力づくり	オロロンスノーパラダイス2017でのシーニックPR展示による広報活動 主催: オロロンスノーパラダイスプロジェクト	平成29年2月4日 ～2月5日	留萌開発建設部	オロロンスノーパラダイス2017において、萌える天北オロロンルートの活動紹介とシーニックバイウェイ北海道の広報やパネル展示、地域イベント情報を提供するドライブ情報紙やオロロンまっぷを配布した。 今後も、ルートの活動やシーニックバイウェイ北海道の更なる認知度向上に向けた取り組みが必要。	新たな地域イベントへの参加及び地域とのコミュニケーションにより継続して交流・振興を深めたい。	
		2016留萌振興局よりみちの駅でのシーニックPR展示による広報活動 主催: 留萌振興局	平成28年10月22日	北海道留萌振興局、留萌開発建設部	2016留萌振興局よりみちの駅において、萌える天北オロロンルートの活動紹介とシーニックバイウェイ北海道の広報やパネル展示、地域イベント情報を提供するドライブ情報紙やオロロンまっぷを配布した。 今後も、ルートの活動やシーニックバイウェイ北海道の更なる認知度向上に向けた取り組みが必要。		
全体	景観、食、環境保全、レクリエーション、歴史・文化全体の方針に関わる活動	「るもい食楽歩」ホームページのリンク及び情報紙「るもい食楽歩」の配布 発行・編集: 留萌観光連盟	通年	留萌市、増毛町、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、留萌開発建設部	ルートの活動や地域情報の発信を目的として、「るもい食楽歩」のホームページと留萌開発建設部及び各自治体のホームページをリンクして連携した広報活動を行うとともに、情報紙「るもい食楽歩」を留萌開発建設部、各自治体の庁舎及び道の駅で配布した。	まちづくり、地域づくりをテーマとしたルートの様々な活動は、継続した取り組みにより地域内外に浸透している。 今後も、これらのツールを有効に活用し、ルート活動や地域資源のPR活動を進めたい。	
		「萌える天北オロロンルート: 道の駅スタンプラリー」との連携 主催: 萌える天北オロロンルート 6/20～11/3	平成28年6月4日 ～11月3日	小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、留萌開発建設部	[自治体] 道の駅との連携及び応募者への地域特産品の提供を行い、スタンプラリーの開催に協力した。 [留萌開建] 道の駅との調整や記者発表による広報活動を実施した。		
		ドライブ情報紙の発行 発行・編集: 地域情報受信システム実行委員会、留萌開発建設部	通年	留萌市、増毛町、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、幌延町、留萌開発建設部	[自治体] 各地域のイベント情報を提供し、ドライブ情報の作成に協力した。 [留萌開建] ルート内で行われるイベント情報や景観ポイント等、ドライブに役立つ情報の提供を目的とする情報紙“オロロンドライブ情報”を11回発行するとともに、道の駅及び自治体へ配布した。また、データを留萌開発建設部ホームページに掲載した。		
		萌える天北オロロンルートホームページのリンク	通年	留萌市、増毛町、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、幌延町、留萌開発建設部	ルートの認知度向上を目的として、ルートのホームページと留萌開発建設部及び各自治体のホームページをリンクして連携した広報活動を行った。		

※表中“★”は、H27新規に実施した活動